



企業社会論 B - 21 世紀の教養 -
2018 年度 シラバス

● 講義の概要

現代社会は不確実性の高い社会と言われ、過去の延長線上での予測・予見が困難です。未来を「予測」するのではなく、望むべき未来をイメージし、バックキャスト思考で今なすべきことを考えなければいけません。未来を切り拓いていくためには、唯一最適解のない問題を解決しながら新たな社会を創生する必要があります。それには、これまでの社会の在り方や先人たちが築きあげてきた知識・教養、そして、新しい価値を生み出す力が重要となります。「どのように社会に関わり、どんな人生を送りたいのか」という問いを重ね、自らが現在向き合っているものをしっかりと捉え、学生である間や卒業後に自分を向上させて社会を変革する行動に移して欲しいと考えます。

1年次第2Qで開講した「企業社会論A」では、日本を代表する企業等の第一線で活躍されているリーダーの方々を講師として招聘し、企業活動の実態や産業界の将来展望などに関する最新情報を講義していただくことによって、講師らが社会に対してどのように価値を提供してきたかを学び、神戸大学生が「新しい価値の創造者（イノベーター）」として自律的にキャリアデザインを図るためのマインドセットを身につけてきたと思います。一方、この「企業社会論B」では、自分自身が社会に対してどのような価値を提供できるのかを考えてもらいます。社会をより良い方向へ変革するには、自分が①何者であるかを理解し、②何をすべきかを整理し、③社会（他者）へどんな価値を提供できるかを知り、④行動しなくてはなりません。そして、⑤他者を説得して動かすことが求められます。①-⑤ができるようになるために、本授業では、毎回提示される異なる問いに対して、自分の考えを他者へ伝え、他者の考えを聞き、さらに自ら問いを立てることをグループディスカッション形式で実施します。

本授業は、ワークスアプリケーションズ社と大阪大学によって共同開発された「イノベーションのためのパトス・ロゴス・エトス」を基にして設計・実施します。古代ギリシャの哲学者・アリストテレスは、彼の著書「弁論術」の中で、人を説得して動かすには「パトス（感情）」「ロゴス（論理）」「エトス（人徳）」が重要であるとしています。グループディスカッションを通じて、人文・社会科学系、自然科学系、応用科学系など全ての学問分野の人と接し、パトス・ロゴス・エトスをもって他者を説得して動かすコミュニケーションも学ぶことができます。

● 講義の到達目標

- 1) 自分と社会を理解するために必要な情報・知識を集める能力を身につける
- 2) 物事を生み出したり判断したりするための思考を身につける
- 3) 誰かに価値を与えることの意味と意義を理解し、行動に移せるようになる
- 4) 経験や考え方が異なる他人を説得し、共感を得られるようになる

● 開講日程・場所

第3クォーター 水曜日 5限目 (17:00-18:30)

鶴甲第1キャンパス K601教室

● 講義内容

	講義内容	講義形式	課題
第1回	<p>【オリエンテーション】</p> <p>講義の概要、成績評価方法などについて説明する。 エントリーシートに、本講義を履修する動機を記入する。</p> <p>【イントロダクション：価値の変遷】</p> <p>本講義を通じて探求する問題を提起する。</p>	座学 グループ討論	Q1の探求と ミニレポート 作成
第2回	<p>【アイスブレイク】</p> <p>受講生がお互いを理解する。</p> <p>【学問の意義】(鶴田)</p> <p>Q1：学問の意義とは？何を学ぶのか？ 上記のテーマで、個人発表とグループ討論を行う。 学問が社会の役に立つとはどういうことか考える。</p>	座学 個人発表 グループ討論	Q2の探求と ミニレポート 作成
第3回	<p>【企業の存在意義とは】(鶴田)</p> <p>Q2：営利企業の存在意義は何か？ 上記のテーマで、複数の企業に関するグループ討論を行う。 企業がイノベーションを通じて社会に与える影響について考える。</p>	座学 グループ討論	Q3の探求と ミニレポート 作成
第4回	<p>【高度経済成長期と現在の価値観】(門田)</p> <p>Q3：日本社会においてイノベーションを生み出しやすい企業の仕組みとは？ 上記テーマで、グループ討論を行う。 戦後日本のイノベーション、日本的経営・アメリカ的経営について考える。</p>	座学 グループ討論	Q4の探求と ミニレポート 作成
第5回	<p>【テクノロジーと未来社会】(門田)</p> <p>Q4：テクノロジーを使って、私たちはどのような未来を創造するのか？ 上記のテーマで、グループ発表を行う。 未来の社会は我々人が創り出すことについて考える。</p>	座学 グループ発表	Q5の探求と ミニレポート 作成
第6回	<p>【価値提供について】(祇園)</p> <p>Q5：イノベーターはどのような価値を創出したのか？ 上記のテーマで、複数の日本人に関する個人発表とグループ討論を行う。 個人が社会へ及ぼす影響とその源泉は何かを考える。</p>	座学 個人発表 グループ討論	Q6の探求と ミニレポート 作成
第7回	<p>【理想の大学】(祇園)</p> <p>Q6：大学の教養教育として最も相応しい学問は何か？ 上記テーマで、自分の課題について個人発表とグループ</p>	座学 個人発表 グループ討論	

	<p>討論を行う。</p> <p>現状と望む未来像とのギャップとそれを埋めるために必要なことについて考える。</p>		
第8回	【まとめ：今後に向けて】	座学 グループ討論	

● 成績評価

毎回提出のレポート（内容評価にて各授業で最大10点）、授業中のディスカッション参加状況(20点)により総合的に評価します。

● 担当教員

鶴田宏樹 (TSURUTA Hiroki)

神戸大学 学術・産業イノベーション創造本部 准教授

tsuruta@kobe-u.ac.jp

神戸大学大学院博士後期課程農学研究科修了（農学博士）。

祇園景子 (GION Keiko)

神戸大学 工学研究科 道場「未来社会創造研究会」 特命助教

kgion@port.kobe-u.ac.jp

神戸大学大学院博士前期課程自然科学研究科生物環境科学専攻修了。私立福山大学大学院生命工学研究科博士号取得。

● 運営学生

門田省吾 (MONDEN Shogo)

神戸大学経済学部3年生